

## 令和元年度活動報告書

会 員 名	富山県高岡市		
活 動 名	伏木港開港120周年開港日記念シンポジウム		
主 催 者	伏木港開港120周年記念事業実行委員会		
報 告 者	所属	高岡市産業振興部みなと振興課	TEL
	氏名		E-mai
協議会以外の 共催・後援等			
実 施 時 期	令和元年7月13日		
実 施 規 模	約250人		
実施事業費	459,759円		
実 施 概 要	活 動 全 般		
	【事業概要】 伏木港が開港120周年を迎える7月13日に、伏木の将来を背負って立つ子どもや若者たちに、地元伏木のことを勉強し、考えてもらうきっかけをつくり、「みなとまち伏木」の今後さらなる発展に繋げるもの		
	【具体的な取り組み】 東日本大震災の復興支援活動として、自作の紙芝居を披露するなど、全国でご活躍している紙芝居師による、「伏木港の発展に尽力した藤井能三を中心とした人々の功績や伏木港の歴史」についての紙芝居の作成及び講演。「10年後のみなとまち伏木」をテーマとした、中高生及び若手社会人によるパネルディスカッションの実施。		
	他の会員の参考となる新しい試み等		
	子どもたちが活発に発表できる雰囲気づくりとして、従来の基調講演ではなく、歴史等を紙芝居により学んでもらう。		
実施にあたり苦勞した点 (今後他の会員が実施する上で注意する点)	チラシを地元の全世帯、地元の小学校・中学校・高校・幼稚園・保育園等に配付し、公共施設等に設置。HPやSNS、地元の新聞による告知を行ったが、参加定員になかなか達せなかった。上記の方法で参加者を集めるのであれば、ファンをたくさん持つ人を招聘するか、来てでも欲しくなるような特典が必要。		
参加者の反響 (参加者の声)	紙芝居については、「内容がわかりやすかった」、「なっちゃんの元気がよく楽しかった」などの肯定的な意見が多数であった一方で、「うるさ過ぎて分かりにくかった」との意見もあった。パネルディスカッションについては、テーマに対する自らの意見の回答が多かった。		
活動に対するPR内容	チラシの配付・設置、HPやSNS、新聞による告知		
マスコミ等の反響	当日に地元テレビ局のニュース番組に取り上げられ、翌日は地元紙の地域欄に大きく取り上げられた。		
実施状況写真	別紙のとおり		